

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2770301162
法人名	株式会社 エフエムシー介護サービス
事業所名	FMCグループホーム
訪問調査日	平成 20 年 9 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 4 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2770301162
法人名	株式会社 エフエムシー介護サービス
事業所名	FMCグループホーム
所在地	寝屋川市本町16番5号 (電話) 072-822-0130

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年9月24日	評価確定日	平成20年11月4日

## 【情報提供票より】H20年8月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤 21 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 25 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	5階建ての 3階 ~ 5階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	40,000円	
敷金	有( )円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(450,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,830円	

### (4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	25名	男性	11名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	7名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.6歳	最低	67歳		95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	上山病院・藤本病院・大寿会病院・皐月病院・やすらぎ病院・熊崎歯科・伊藤歯
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高齢者福祉総合ビルと称する鉄筋5階建ては、3・4・5階が当ホームで、1階が接骨院と2階がスポーツジムとなっており、利用者の希望や状況に合わせ必要に応じて利用している。開設時に全職員で創りあげた10ヶ条からなる「心得・理念」をバックボーンに、5年半の経験と実績を活かし、介護サービスの新たな展開と向上を目指して努力を重ねている。医療連携体制加算の下、専任看護師による行き届いた健康管理と、各医療機関の協力体制の充実は、利用者と家族にとって大きな安心となっているようだ。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①理念に地域密着を意識した内容を盛り込むこと②評価の意義と活用について事業所を挙げての再確認③運営推進会議の基準に沿った定期的開催と内容の充実④職員異動について速やかな家族への通知⑤介護計画見直しのルール作りと家族への説明、のうち①④⑤については改善への努力が認められるが、②③については更なる改善への取り組みを望むものである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットにおいて複数職員による取り組みをリーダーが纏めたものであるが、各人が評価項目の求めているところを再確認し、全体として介護サービスの充実に努めたいとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	6ヶ月に1回開催され会議録も整備されている。が、「会議」の形に囚われてその運営に苦慮しているようである。今後は構成メンバーの再考と会議運営の工夫とともに、2~3ヶ月に1回の開催に向けての努力に期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や行事参加時に、機会を捉えて意見・要望の聞き取りに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会からの誘いによる地域行事や隣接する高校の招待行事などに積極的に参加している。中学校の体験学習も受け入れている。開設からの経年により近隣住民との交流も和やかに行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の基本理念に加えて、前回評価での課題を意識した「地域に密着した小集団での生活共同体の、生活づくりの中で、幸せ探しを支援する」とした新たな項目を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に唱和することにより、新たに加えた理念を意識し、従来からの心得を再確認して日々の実践に取り組む努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設からの経年で、近隣住民との交流にも和やかさが加わり、地域行事への参加やボランティアの受け入れも積極的に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットごとの評価への取り組みはあるが、その意義と活用について全職員に理解を求めるには難しい状況にあるようだ。	○	それぞれの立場と責任において評価へ関心を寄せることが、日々の介護サービスのふり返りと質の向上につながり、事業所全体のレベルアップになる、ということについて一層の理解を深めるための仕組み作りを望む。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6ヶ月に1回開催され議事録も整っているが、会議の運営には苦慮しているようだ。開催回数も基準に達していない。	○	2~3ヶ月に1回の開催と、構成メンバーに柔軟性を持たせるとともに、双方向性の会議内容になることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	利用者に関する事務的連絡、地域との連携に必要な情報収集などについて、担当者との交流に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	健康状態、受診時の報告はこまめに行っている。その他金銭管理、行事などでの利用者の様子などの報告も適宜、適切に行われている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	具体的な苦情等はないが、家族来訪時には些事な意見・要望にも耳を傾ける努力をしている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	各ユニットの利用者の状態・状況に合わせた人員配置を行い、馴染みの関係をできるだけ壊さないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	希望者には、各人が目指すものへの研修参加、資格取得に向けてのバックアップ体制はある。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域外同業者との交流はあるが、同市内での交流には至っていない。ネットワーク作りの重要性は認識しており、呼びかけがあれば積極的に参加する意欲はある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本として、入居については、家族の見学・本人同道の見学と昼食体験・2・3日の入居体験を経てからの契約としている。この間の経験は、利用者と職員の相互にとって、今後の「共にする生活」には重要な要素になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの心得にある、「十人十色・一人十色、介護に答えはない」「尊敬の意を持ち続ける」を念頭に、支え合う日常であることに努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個性と意欲＝その人らしさを見失わないよう、損ねないように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の心身の状態、家族の希望などアセスメントを丁寧に行い、その人のための介護計画を関係者・チームで作るよう心掛けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングを基に、変化に応じた計画の見直しを行い、その都度ケアマネから家族に報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	内科医の週1回の往診があり、経管栄養・酸素吸入など医療的措置の必要な利用者も在籍している。受診・通院のための外出支援も実施されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意している。専任看護師による綿密な連絡の下に、適切な医療が受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応については、協力病院の支援体制が充実しており、職員間の合意も図られている。ターミナルについては、今夏の経験1事例のみだが、これを機に出来る事の範囲を明確にしなが家族との話し合いを進めていきたいとしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の大先輩として敬い、その人にふさわしい言葉かけ、対応を心掛けている。記録等の管理も十分である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に留意し、やりたいこと・できることを最優先に支援するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLの低下により調理への参加は難しくなっているが、配膳や片付けの姿はある。職員も同席して会話を交えながら食事を促している。食事介助も適切に行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者は、午後からだだが毎日入浴できる。個浴が基本だが、身体状況によっては機械浴も可能である。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活のなかに、来歴・経験による「できること・できないこと」を取り入れて、それぞれのその人らしい一日が過ごせるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節・天候に、また心と身体の状態に合わせての外出支援がある。		
<b>心</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路沿いにある5階建ての3～5階という居住条件では、玄関の施錠はやむを得ないものとする。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練は実施されている。災害時に近隣住民の協力が得られるように、運営推進会議等を通じての交流を深めたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況について情報を提供して、食材納入業者の管理栄養士に献立作成を依頼している。摂取量チェック・水分補給チェックも適切に行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3～5階にある居間兼食堂は、採光も通風も十分であり、過度でない室内の飾りにも季節感があり、落ち着いた雰囲気がある。その他の共有空間も夫々清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込み、好みの飾りつけなど、家族の思いも合わされた「その人らしい」居室が整えられている。		